

### 3 研究のまとめ

#### (1) 研究の成果

本研究では、アクティブ・ラーニングの手法の一つである「知識構成型ジグソー法」を取り入れ、思考力・判断力・表現力を高める授業の実践を行いました。また、調査資料のまとめや意見の共有場面において、ICTを利用することで、生徒の興味・関心や主体性が高まり、授業展開もスムーズになると考え、研究を進めてきました。

##### ○アクティブ・ラーニングの手法に関する研究について

高等学校家庭科の目標である「生活を創造する能力」は、生活課題を解決する能力であり、生活課題を解決することは青年期の発達課題を達成することにも関係しており、様々なレベルの生活課題を相互に関連させて総合的に解決していくことが大切だということが分かりました。また、生活課題を解決する学習として、これまでも行われてきた問題解決的な学習の必要性が一層増すものと考えられます。問題解決的な学習を行う際には、生活課題を生徒自身に見いだし、考えさせることが重要です。しかし、生活体験が少なくなっている現在、難しい状況でもあります。そこで、多種多様な生活課題に対応していくために、多様な価値観を受け入れることができ、他者と協働的な学習ができるアクティブ・ラーニングの考え方を取り入れた授業づくりを行う必要性を感じました。協働的な学習の中でも、多様な価値観を受け入れることができ、新たな知識や考えを形成することができる「知識構成型ジグソー法」に取り組むことにしました。「知識構成型ジグソー法」によって得られる新たな気付きや視点の変化は、より主体的に思考・判断することを促し、生活課題を解決する力の育成に役立つものと考えます。

##### ○授業における効果的なICT活用について

意見の共有を目的としてOneNoteを使用しましたが、生徒は「グループ内の意見をまとめて見ることができる」や「意見交流ができる」など、意見を共有する目的で使用することに対して肯定的に捉えていました。しかし、共有以外の面では、「どちらともいえない」の回答が多く、学習用PCの効果的な使い方についてはまだ検討していかなければなりません。

##### ○授業実践を通じた、効果的な学習指導について

「知識構成型ジグソー法」の実践を通して、思考力・判断力・表現力の高まりを検証しました。主に、ジグソー活動中のOneNoteの記録、グループの会話、ワークシートの記述内容を基に検証しましたが、自分の意見をまとめたり、他者に伝える難しさを感じたりしながら、協働的な学習を通して多様な価値観に気付く生徒が多く見られ、思考の高まりが感じられました。また、アンケート調査の結果、特に、ジグソー活動時に思考が深まったという意見が多く、協働的な学習である「知識構成型ジグソー法」が家庭科の思考力・判断力・表現力を高める学習方法として、非常に有効であることが分かりました。

#### (2) 今後の課題

今回は、授業実践において「知識構成型ジグソー法」を取り入れましたが、課題の設定とエキスパート資料の作成にかなりの時間が掛かりました。「知識構成型ジグソー法」は、思考力を高め、多様な価値観を獲得できるなど、高等学校家庭科においても非常に有効な学習方法だと思います。課題の設定やエキスパート資料の作成を複数の家庭科教師で行うなど、負担を軽減しつつ共有できるようにすれば、さらに充実した取組ができるものと考えます。また、今回ジグソー活動やクロストークで使用したOneNoteワークシートのデジタルポートフォリオやパフォーマンス評価への活用を検討するなど、評価方法についても今後まだまだ工夫が必要であると思います。さらに、「家庭基礎」2単位の中で、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた学習を年間指導計画の中にどのように位置付けるか、題材の工夫とともに取り組んでいきたいと思っています。